

環境と健康

環境づくり・健康づくりのコミュニティ情報紙

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL <http://www.kanhokyo.or.jp/>



海岸清掃には多数の観光客も飛び入り参加(上)、ミヤジマトンボの説明に聞き入る参加者(中右)、大量に漂着するパイプ(中左)、ゴールの大元公園で交流を深める廿日市市公衛協メンバー(下)

7月16日(土)、広島県主催の「宮島海岸GOM-ゼロ大作戦」が開催されました。瀬戸内海の環境の保全に関する広島県計画」の取り組みの一つで、当日は約千人が集まり、楽しみながら環境活動を行う6つのプロジェクト「スポンジGOM-ゼロ大作戦」「GOM-拾いウォーキング」「GOM-拾いアップ」「宮島エコツアー」が実施されました。

「GOM-拾いウォーキング」の開会式では、広島県の高垣副知事、廿日市市の堀野副市長のあいさつに続き、ミヤジマトンボ保護管理連絡協議会の坂本会長から、宮島で約60年にわたり生き残っている固有種ミヤジマトンボが生息する環境が紹介されました。

参加者からは「海岸はごみが多いけど、道や商店街はきれいだ」と驚いた「地元の人から、海をきれいにしてほしい」という声も聞かれました。

とてもきれいな「漁業由来のパイプや発泡スチロールが多い」などの気づきと、「もし生き物がごみを食べたなら」大きな発泡スチロールが割れて大量のかけらが発生するなどの不安の声も聞かれました。公衛協や自治体の参加者は「空き缶やたばこの吸殻がないことに驚いた」「地元の人から、海をきれいにしてほしい」という声も聞かれました。

「地域活動支援センター」で、地元のごみ事情との違いや「楽しく、気持ちよく歩けた」「一万歩以上歩いた」とさわやかに語られました。

このイベントをきっかけに、県内各地の水辺で、次世代へつなげる景観、環境保全の取り組みが広がることを期待します(5面に関連記事)。

「琴線歌」は、地震に大雨、これほどまで災害が続くと明日は我が身かも?と心配になられる人も多いことと思います。災害はいつ、どこで起こってもおかしくありません。誰もが不安に思うことですが、特に一人暮らしの高齢者の不安は大きいものがあります。災害時に最初に手を差し伸べてくれるのは近所の人です。この近隣関係が最近変わってきています。

高齢期の孤立を防ぐ。日常生活の中で、行動(散)宅問題を研究して、高齢期の孤立の問題が深刻化している状況がわかります。都市部の集合住宅では、誰にもみとられずに亡くなり、死後発見される「孤立死」の増加が問題となっています。近隣との交流がない環境が増えているのです。こういう状況では、災害時の助け合いも期待できません。人は高齢に伴い脚が弱り、外出が少なくなってきます。そして、若い頃にはなかった家も高齢者だけになる。

歩や庭の手入れ、あいさつなどが、近所との接点で「ミニミニ」を育みます。すぐにできることとして、外に開く家づくりを意識することがあります。玄関まわりに植木を置いて水やりをしたり、窓を開けたりすることで接点は増えます。まずは住宅の外との接点を増やすことから、高齢期の孤立を防ぐ取り組みをしてみませんか?

基本理念
～みんなの生命(いのち)をまもりたい～
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、地域社会の発展に貢献します。

第55回環境保健夏季大学開催 170人が体験と意見交換

環境保健夏季大学は、市町公衛協推進委員、事務局担当者を主対象とした1泊2日の宿泊研修で、体験交流を通して今後の環境保健・公衆衛生の向上と活動の活性化をねらいに開催しています。

今年は、平成28年7月7日～8日に第55回環境保健夏季大学(合同研修)を開催し、県内各地から約170人がグリーンピアせとうち(呉市)に参集しました。

開講に先立ち、60年にわたる公衛協活動の歴史を振り返るスライドを上映し、公衛協に関する認識を共有しました。当協会佐藤均理事長の開講あいさつに続き、広島県健康福祉局医療・がん対策部長金光氏、呉市市民部長品川氏からあいさつをいただきました。

1日目は、当協会が主催する3つの専門研修の体験と今年度から始めたキャラバンフィットネス事業の紹介の4つの分科会に分かれて「ミニ専門研修体験」を行い、公衛協での人材育成・人材発掘のヒントを持ち帰っていただきました。

2日目は、広島修道大学人間環境学部の西村仁志教授を講師に迎え、「『無関心層』への働きかけの基本のキ」と題した基調講演(2面に講演趣旨)を行いました。基調講演のヒントを参考に、「環境づくり」「健康づくり」「認知度・参加率UP」の3つの分科会に分かれ「どうやって無関心層へ働きかけるか」について、意見交換を行いました。



分科会では、「えんたくん(直径1.5mのダンボール卓)」を使い、4～6人の小グループに分かれて、活動の現状やいかに働きかけを工夫するなど、膝を突き合わせて情報交換が行われました(2面に関連記事)。

最後に、重点メニューの一つである「1万人の食チェック事業」のお楽しみ抽選会を行いました(3面に関連記事)。

閉講式では、参加者を代表して福山市公衛協の瀬尾敏治会長に修了証が授与され、全日程が終了しました。



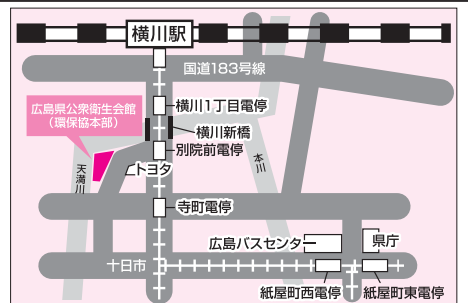
一般財団法人 ~みんなの生命(いのち)をまもりたい~
広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)

TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

かんぽきょう

検索



体験研修と情報交流

さらなる活動の活性化をねらう

環境保健夏季大学 分科会報告

今年度の夏季大学は、1日目に当協会が主催する専門研修を体験する分科会を、2日目には、無関心層への働きかけについて情報交流する分科会を実施しました。分科会の実施内容について紹介します。



公衛協クイズは、「ウソ」「本当」の札で回答した

「ミニ専門研修体験」

専門研修は、公衆衛生推進委員の力量形成及び組織強化を図るため、あるテーマについての専門的な知識・技術の習得を目的に開催しており、今年度は5つのコース(表参照)を実施しています。

紹介を行いました。また、大変盛り上がった公衛協クイズは良い振り返りの機会になりました。

②「ごみ減量・3Rコース」

ごみの減量や3Rについて、パワーポイントを使って学習しました。また、ごみについて学んだほか、環境祭りなどの

イベント出展で、ごみについて考えるきっかけづくりとなる牛乳パックを使ったリユース工作を体験しました。

③「広報・ツールづくりコース」

広報に関するミニ座学と、当協会が作成したチラシを教材にした「見所」チェックを行いました。チラシを見た際、どこに視線が行くか、その場所を指差し、製作者の意図と読者の反応の違いについて体験しました。

④「マシンとボールを使う運動体験」

運動器症候群(「コモティブシンドローム」)の予防についての座学、オリジナルセルフケアグッズ「Love-a-Ball(フヴァボール)」を通じて転倒予防につながるストレッチ体験を実施しました。

「無関心層へ働きかける方法の検討」

基調講演を参考に、「環境づくり」、「健康づくり」、「認知度・参加率UP」の3つの分科会に分かれそれぞれの市町公衛協が取り組んでいる活動内容や課題を共

「無関心層」への働きかけの基本のキ
思いを基礎に自分と相手を分析

講師の西村氏は、1993年に環境共育事務所ラースを開業、同志社大学准教授を経て、現在は広島修道大学人間環境学部の教授です。専門領域は、環境教育・青少年教育・政策科学・ソーシャル・イノベーションです。今回は、これまでの経験から、無関心層へ働きかけるヒントをお話していただきました。



広島修道大学
人間環境学部教授
西村 仁志 様

第55回環境保健夏季大学講演要旨

基礎研修のデモンストラクション、公衆衛生推進手帖の掲載内容を確認し、基礎研修の実施提案やプログラムの

①「基礎研修の開き方コース」



牛乳パックを使ったリユース工作で「変わり絵BOX」を作る参加者(上)、無関心層へ働きかける方法を小グループで意見交換し発表する参加者(下)

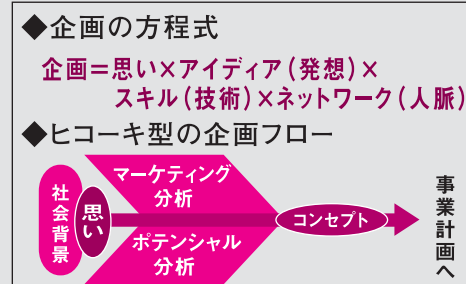
参加者からは「特効薬はないので、参加する」と得をするという工夫をしたい「同じ清掃事業でも運用方法の違いに情報交流会を行いました。各分科会の情報交流会では、「斉清掃」「エコチェック事業」「ウォーキング」「献血」「チラシ」など、公衛協の実践活動をキーワードに5名程度の小グループに分かれ、無関心層はどんな人たちのなか、「これまでどのような働きかけをしてきたか」「参考になるアイデアや気づきがないか」「何かアドバイスできないか」などを話し合いました。

今年度の夏季大学も、活動を盛り上げるために必要な知識や方法論を学び、体験の交流を通じて今後の環境保健・公衆衛生の向上と活性化を図ることをねらいに開催しました。このプログラムがきっかけとなり、活動の活性化につながることを期待します。

(地域活動支援センター)

○平成28年度の専門研修

事業名	内 容	開催日・場所
基礎研修の開き方コース	公衆衛生推進手帖を活用した研修の手法について体験を通して学ぶことで、教育担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	5月11日(月) 公衆衛生会館(広島市) 5月12日(火) 環保協東部支所(福山市)
ごみ減量・3Rコース	廃棄物に関する法律やごみ減量の方法、3Rについて体験を通して学ぶことで、教育担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	5月30日(月) 公衆衛生会館(広島市) 6月17日(金) 環保協東部支所(福山市)
広島県がん検診推進員養成研修	広島県が作成したテキストを使用した研修を開催。がん検診に関する知識を習得し、がん検診の受診勧奨を積極的に行う人材を養成する。	7月13日(水) 公衆衛生会館(広島市) 8月29日(月) 環保協東部支所(福山市)
広報・ツールづくりコース	公衛協活動をPRしていくツールづくりのノウハウを体験を通して学ぶことで、広報担当リーダーの養成を行い、公衛協活動の活性化を図る。	9月13日(火) 廿日市市民活動センター 9月14日(水) 尾道市総合福祉センター
企画づくりコース	地域で抱える問題・課題について整理し、解決するための「思い」を「かたち」にする企画づくりを行う。また、他市町との交流を図る。1泊2日の宿泊研修。	平成29年 1月19日(木)～20日(金) グリーンピアせとうち(呉市)



企画のポイント(上)、熱心に聴講する参加者(下)

「ポテンシャル分析」を行います。この2つの分析が基本のキの部分で、企画の主翼となります。無関心層はひとつの集まりではないので、無関心層の中からさらに「来てほしい顧客」を絞り、その顧客に働きかけるにはどうすれば良いかを考えていきます。

最後に、広報活動(働きかけ)を行います。食事やトイレなど誰もが必ず行うことと結びつける、複数の情報発信手段を持つ他の活動と一緒に実施する、なども広報活動のひとつです。「来てほしい顧客」に届ける広報活動が重要です。

関心のある人たちに比べ圧倒的に多い「関心のない人たち」に働きかけるポイントは、「大切な時間を使っても良い」と感じさせることです。そのために必要なものは「企画の方程式(企画＝思い×アイデア(発想)×スキル(技術)×ネットワーク(人脈))」と「ヒコキー型企画のフロー(図参照)」です。特に「思い」が重要で、社会背景から「こうしたい」という思いを具体化させたものが企画です。

思いを基礎に、社会動向と顧客を知る「マーケティング分析」と私たちの持つ力を知

次に、働きかけるための情報をまとめます。全体の骨格となる発想・視点・考え方をまとめた「コンセプト」の整理と、「コンセプト」と企画の全体像を分かりやすく表し、興味の持てる「よいネーミング」が

無関心層に働きかけるために、活動に込めた「思い」は何か、思いを形にするために自分と顧客を分析できているか、顧客に伝わる「コンセプト」や事業名となっているか、広報の手段は適切か、を今一度振り返ってみましょう。

(編集部)

1万人の食チェックカード 強化期間 2016年6月19日(日)～25日(土)

1日の食事で摂取した食品に○印をつけましょう。

日	ごはん	パン	野菜	きのこ	豆	肉	魚	卵	牛乳	果物	食塩	食器
19日												
20日												
21日												
22日												
23日												
24日												
25日												
合計												

性別 男・女 年代 人 世帯人数

～気づいたことを書きましょう～

公衛協名 (市町・支部・地区・学区)

7月31日現在で、摂取した食品を記録した食チェックカードが3千278枚提出されている。7月31日現在で、摂取した食品を記録した食チェックカードが3千278枚提出されている。

「締め切り間近に電話などで提出を促す」など、実践率の高い公衛協の取り組みが県内全域へと広がった成果と言えるでしょう。

回収されたカードに記載されたコメントを見ると、「今回からチェック内容が簡単になり、パランスが確認できた」「食事を手帖67ページから75ページ

平成28年6月19日から25日の1週間、県内約1万人の公衆衛生推進委員を対象に、毎日の食事でどんな食品を摂取したかをチェックする「1万人の食チェック事業」強化期間が終了しました。今回はその結果を報告します。

また、目標である実践率50%を達成した公衛協は11団体で、昨年度の9団体から2団体増加しました。回収にあたって、「強化期間直前にカードを配布する」

作るときの参考になった」「意識して魚を食べるようになした」といけ

「牛乳・乳製品」「果物」など強化期間中に一度も食べていない人がいる食品もあり、現在の食生活の課題も見えてきました。

1万人の食チェック事業

平成28年度 実践率は36.2%

22公衛協・3,278人の推進委員が参加

● 1万人の食チェック事業実践率一覧 ● (7月31日時点)

No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率	No.	公衛協名	全委員数	実践者数	実践率
1	府中町	91人	47人	51.6%	14	安芸太田町	48人	24人	50.0%
2	海田町	87人	33人	37.9%	15	北広島町	406人	136人	33.5%
3	熊野町	32人	25人	78.1%	16	安芸高田市	261人	75人	28.7%
4	坂町	23人	23人	100.0%	17	東広島市	999人	324人	32.4%
5	江田島市	166人	44人	26.5%	18	三原市	380人	13人	3.4%
6	竹原市	89人	72人	80.9%	19	世羅町	336人	51人	15.2%
7	大崎上島町	54人	45人	83.3%	20	尾道市	340人	70人	20.6%
8	大竹市	71人	42人	59.2%	21	福山市	1,173人	700人	59.7%
9	廿日市市	298人	164人	55.0%	22	府中市	689人	0人	0.0%
10	廿日市市大野	672人	272人	40.5%	23	神石高原町	31人	0人	0.0%
11	廿日市市佐伯	21人	15人	71.4%	24	三次市	450人	51人	11.3%
12	廿日市市吉和	23人	0人	0.0%	25	庄原市	360人	218人	60.6%
13	廿日市市宮島	44人	0人	0.0%	26	呉市	1,903人	834人	43.8%
		合計	9,047人	3,278人	36.2%				

COOL CHOICE

私のクールチョイス

① クールチョイスとは

このコーナーでは、【買い替え】、【サービス】、【ライフスタイル】の3つの視点で、さまざまなクールチョイスの事例を紹介します。

【買い替え】省エネで高効率な家電、設備、建築物の低炭素製品への買い替えなど
【サービス】公共交通の利用やエコルマークの付いた商品、グリーン電力の選択やスマートメーターによる「見える化」につながる低炭素サービスの選択など
【ライフスタイル】家庭でのエネルギー消費量・二酸化炭素排出量を減らす取り組みやエコドライブなど



環境省中国四国地方環境事務所
広島事務所加藤所長(右)と西調査官(左)

第1回目は、環境省中国四国地方環境事務所広島事務所所長 加藤博己様、環境対策課 地方環境対策調査官 西正賢様にクールチョイスの考え方を伺いました。

定、地球温暖化対策推進法と地球温暖化対策計画の策定などを踏まえ、2016年度は温暖化を防止するうえで大きな節目となる年です。パリ協定で日本は、2030年に2013年比26%の温室効果ガス削減を目指し、

「賢い選択」で温室効果ガス削減

使うのか。階段を歩いて上るのか、エレベーターを使うのか。何気ない日常生活のさまざまな場面、どちらが「賢い」選択か考え実行することが重要です。皆さんひとりの取り組みに期待をしています。

「クールチョイス」とは、省エネ・低炭素型の製品・サービス・行動や、温暖化対策において「賢い選択」を促す国民運動です。気候変動枠組み条約の取り決めに始まり、2015年12月にCOP21で採択されたパリ協

商業サービス・事業所などの「業務その他部門」と、私たちの生活である「家庭部門」は約40%(同2013年度比)削減という大変厳しい目標となっています。

は言えないことから、さらなる普及啓発が必要です。私たちの生活は選択の連続です。製品を買い換える時、省エネ型の商品にするのか、それとも安価なものにするのか。移動は公共交通機関を使うのか、自家用車を

ーの食に関する学習ページをご活用ください。

(地域活動支援センター)

6月28日、神石高原町の三和小学校6年生児童による学習発表会と公衛協推進委員との情報交流会が開催されました。

発表は、5年生のときに公衛協が協力して実施した水辺の学習会をきっかけに、「小田川のゴミ問題」「ぼくらの小田川水質向上大作戦!」「小田川に生き物を」の3班に分かれて、これからの水環境を守っていくために、私たちはどうすればいいのかを考えたものでした。

ゴミ問題班は、河川清掃を行ったり、環境衛生課への聞き取りを行いました。児童は、ごみが多いこと、減らないことを知り、これを解決するために警告看板の設置を企画しました。

水質向上班は、川の水が濁っていることや泡が浮いていることを確認しました。これを解決するため、皿や鍋の油は紙などでふき取ってから洗う、廃油せつけんを作ること、最終的に合併浄化槽の設置を地域へ伝えることを企画しました。



28 神石高原町公衛協
【水辺の学習会】

生き物班は、生き物が少ないことに気がつきました。生き物を増やすために、すみかを増やすことを考え、魚の人工産卵床づくりを企画しました。

子どもたちの発表の後、公衛協推進委員と児童で、各班の企画へのアドバイスや昔の川での遊び方、生き物の様子などを話し合

世代間学習・交流事業のモデル

3つのグループで保全活動



学び、発見、これから挑戦したいことを発表する児童(上)、児童の考えにアドバイスを
行う推進委員(下)

いました。

子どもたちは、今回の交流で得た情報を元に、小田川の環境を守っていくため、ポイ捨てを防止する看板の作成や水質検査、生き物調査を行う計画を立てています。

水辺の学習会で終わりではなく、地域の方との交流を通じて昔と今の様子を比べながら、今後の保全活動を地域で考えていく世代間学習・交流の取り組みの良い事例です。一歩進

んだ学社融合事業のモデルとしてぜひ参考にしてください。

(地域活動支援センター)



「スポGOMI!」参加者と活動成果

「美しく恵み豊かな瀬戸内海の実現」 多くの主体が協力して漂着物対策を検討



③ 海ごみ対策

広島県では、環境保全に加え、海岸などが美しく保たれることにより生まれる観光資源としての価値の向上、活動への参加による満足感や交流といったことを通じた地域の活性化などを目的として、新たに「海ごみ対策推進事業」を展開しています。

具体的なものとして、今年度は次の2つの取り組みを行っています。

1つ目は、楽しみながら環境保全意識を高めてもらうことを目的として、海岸一斉清掃のモデル事業を実施することとし、宮島海岸一斉清掃活動(宮島海岸GOMIセロ大作戦)を7月16日に開催しました。

この事業は、ごみ拾いをスポーツとして普及させた「スポGOMI」、宮島の豊かな自然の中でウォーキングを楽しむ「GOMI拾いウォーキング」、県の婚活支援



県の婚活支援事業と共同実施した「GOMI拾いコン」

事業と組み合わせさせた「GOMI拾いコン」など、6つの清掃プロジェクトから参加者が希望するものを選んで参加するもので、約1千人にご参加いただき、約1トンのごみを回収することができました。

このモデル事業をきっかけとして、参加者が楽しめる工夫を取り入れ、一斉に清掃するような取り組みを県内市町などに広げていくことが次の課題と考えています。

2つ目は、「広島県海岸漂着物等対策推進地域計画」の策定です。

この計画は、海岸漂着物処理推進法に基づき、着物を重点的に推進する区域や関係者の役割分担や相互協力などに関する事項を定めるものです。

計画を実効性のあるものとするため、国、県関係課、沿岸市町、民間

話題の健康づくり アラカルト ⑫ アルコール

お酒は食欲を増進し、ストレスの解消や円滑な人間関係を作るなど利点も多いのですが、度を越すとさまざまな病気の原因となることは、皆さんご存知のとおり。アルコールは60以上の病気の原因とされ、1日3合以上の多量飲酒者は全死亡(※1)で死亡率が男性1.4倍、



⑦ 転倒予防セミナー

ひろしま転倒予防セミナーは転倒の予防・対策・支援に取り組み、情報及び経験を共有することを目的としています。

平成28年7月3日に「第16回ひろしま転倒予防セミナー」を開催しました。このセミナーは、広島転倒予防研究会創設以来、当協会が事務局運営を担っているところであり、計画は、今年度末に策定・公表する予定です。

(広島県環境保全課)

広島転倒予防セミナー開催 転倒の予防・対策・支援に取り組む

かわらず、2008人の参加者がありました。今回のセミナーでは、

ハビリテーション施設における新たな取り組みについて科学的な視点から、いかに実践に結び付けていくか発表が行われました。また、骨粗鬆症(こつそし)という啓発に関する課題についても、新たな視点として報告がありました。主題として、認知症治療の現場から、片山禎夫先生が「認知症を低下する要因・上昇する要因」について最先端のサイエンスを含めた



講演をされました。特別講演では、転倒予防学のパイオニアであり、転倒予防を学問として体系化した日体大総合研究所の武藤芳照先生に「高齢者の転倒・骨折・介護予防の理念と実践―転倒予防学の構築を目指して―」の演題で、迫力があり、かつ分かりやすい講演をいただきました。

我が国の高齢化は急速に進んでおり、要介護者及び認知症患者の増加は早急に取り組むべき国民的課題となっています。高齢者の日常生活動作・生活の質の改善、寝たきり予防など、社会全体で取り組んでいく必要があります。高齢者の転倒予防に関しては、病院でのイ



(健康クリニック 渉外課 横見和信)

末永くお酒を楽しむために 意外に少ない適量アルコール

女性1.6倍、がんでは男女とも1.6倍程度高まると言われています。認知症でも2合以上の飲酒でリスクは2.4倍になります。

アルコールは、約7

から、分解に3時間程度かかります。

一般には男性でアルコール44g、女性では22gの飲酒で疾病のリスクが高まるとされています。アルコール40

を求めず適量飲酒に努めましょう。

「健康診断で異常がない」「楽しく朗らかな飲酒」「家族も心配していない飲酒」で末永くお酒を楽しみたいもの

割が小腸から吸収され、肝臓で分解されます。肝臓で1時間に分解できるアルコールは7g程度です。ビール500ml、日本酒1合のアルコールは約20gです

割が小腸から吸収され、肝臓で分解されます。肝臓で1時間に分解できるアルコールは7g程度です。ビール500ml、日本酒1合のアルコールは約20gです

割が小腸から吸収され、肝臓で分解されます。肝臓で1時間に分解できるアルコールは7g程度です。ビール500ml、日本酒1合のアルコールは約20gです

アルコールと上手に付き合うために

- ◎週に2日は休肝日を
- ◎適量飲酒(女性は半量)
- ◎食べながら飲む
- ◎マイペースでゆっくりと、楽しく
- ◎水分を十分に
- ◎濃いお酒は薄めて飲む
- ◎お酒を飲みながらのタバコは禁物
- ◎お酒の後の「ラーメン」「お茶漬け」は禁物
- ◎はしご酒、チャンポンは避ける
- ◎薬と一緒に飲まない
- ◎深夜まで飲まない
- ◎寝酒にも要注意

適量飲酒量(男性)



公衛協事業とイベント(9月～12月)

毎月第2・第4(日)空き缶リサイクルステーション(安芸高田市八千代支部)

9月25日 おおたけクリーンキャンペーン(大竹市)
エーコと瀬野川環境フェア(海田市)

10月1日・2日 市民健康・福祉まつり(府中市)

10月2日 環境フェスタ(廿日市市)

10月9日 安芸太田ウォーキング大会(安芸太田町)

10月15日 腰細浦海岸清掃(廿日市市宮島)

10月22日・23日 府中つばきまつり(府中町)

10月23日 ハーモニーフェスタとリサイクルまつり(廿日市市佐伯)

10月30日 市民ふれあい親子ハイキング(大竹市)

11月(未定) せら・里山笑コフェスタ(世羅町)

11月～12月 地域ぐるみ水質検査事業(安芸高田市八千代支部)

11月5日 庄原市リサイクルフェスタ(庄原市)

11月6日 かんきょうまつり(安芸高田市)

11月13日 みよし環境フェスタ(三次市)
第39回尾道市公衆衛生大会(尾道市)
第34回おのみち市民健康まつり(尾道市)

11月13日 第20回コイ・こいフェスティバル(大竹市)

11月18日 町内一斉清掃(安芸高田市八千代支部)

11月27日 市長と歩こう 歩け歩け大会(三原市)

12月7日 がんフォーラム(三原市) 平成28年度基本調査より



受診啓発グッズの例

【推進委員への啓発】

廿日市市・三原市で

「イベントにおける啓発」

廿日市市・三原市・福山市西部ブロック会・庄原市では、市内の大きなイベントに公衛協ブースを出展し、啓発グッズの配布による受診の呼びかけを行っています。



【アンケート調査】

大崎上島町では、保健衛生課と協力して町内のスーパー利用者を対象に、啓発グッズの配布による受診の呼びかけと同時に、がん検診に関するアンケートを実施しているかどうか、受診し

がん検診受診率の向上に公衛協が一役

啓発グッズを利用し広くPR

地域活動支援センターでは、公衛協が取り組む健康づくり事業の一環として、がん検診の受診率向上を目的とした「がん検診へ行こうよ！キャンペーン事業」を平成27年度から実施しています。本事業では、受診啓発グッズとして公衛協名と「がん検診へ行

シユを作成し、配布しています。

今年度は、大崎上島町・廿日市市・三原市・福山市西部ブロック会・庄原市の5公衛協で展開しており、主な実施内容を紹介します。

は総会等を活用し、推進委員にがん検診の啓発活動を行っています。公衛協の推進委員自らが率先して受診しようという取り組みです。

ていない理由は何かなど現状を把握し、今後の啓発に生かしています。昨年度は9公衛協が本キャンペーンに参加し、啓発グッズを活用した受診勧奨が展開されました。今年度の各市町の検診事業が始まっています。住民の健康を維持するためにも、公衛協の健康づくり事業の一環として、本キャンペーン事業をぜひ活用してください。実施の際には、各市町の健康部局との連携をお忘れなく！

(地域活動支援センター)

1万人のエコチェック事業

8月から9月は、1万人のエコチェック事業の省エネ実践月間です。公衆衛生推進委員の皆さまは、省エネの取り組み成果を確認してみましょう。

確認の方法は簡単です。

電力会社から送付される「9月分の電気使用量のお知らせ」とエコチェックカードを準備してください。電気使用量のお知らせには、該当検針期間の電気使用量・前年同月使用量・前月使

用量・電気使用料金が示されています。エコチェックカードの電気の欄に必要事項を転記してください。

深めるコースに取り組む公衛協は、ガス・灯油の記録にも挑戦しましょう。

記入されたエコチェックカードは、市町公衛協事務局へ提出をお願いします。



エコチェックカード(A)(B)



中国電力「電気ご使用量のお知らせ」

公衛協の「活動への理解」「積極的な参画」を促すため、公衛協活動をPRするツールづくりのノウハウを、体験を通して学びます。平成28年9月5日までにFAXまたは郵便でお申し込み下さい。いずれも、定員:20人(各市町公衛協から最大3人)、参加費無料、旅費の支給あり。

専門研修(広報ツールづくりコース)

西部会場(廿日市市)

開催日時:平成28年9月13日(火) 10:30～16:00

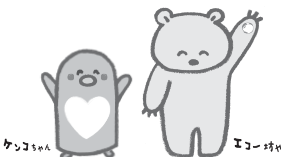
開催場所:廿日市市民活動センター
(廿日市市住吉2-2-16)

東部会場(尾道市)

開催日時:平成28年9月14日(水) 10:30～16:00

開催場所:尾道市総合福祉センター(尾道市門田町22-5)

平成28年度 地区衛生組織活動資金募集



通称

『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、平成28年度で57回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として地域社会に役立てられています。

環境・健康募金
総額(円)

24,652,131



募金の使途(公衛協配分金)

健康づくり

- ・生活習慣病予防や健康づくりの推進
- ・健康づくりのための教室・大会の実施
- ・ウォーキングの推進
- ・子どもを対象とした健康啓発事業

がん検診受診勧奨
(廿日市市公衆衛生推進協議会)ウォーキング
(大竹市公衆衛生推進協議会)食育
(府中町公衆衛生推進協議会)

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
府中町	1,314,050	76.4
海田町	1,980,000	78.3
熊野町	1,429,640	100.6
坂坂町	0	0.0
江田島市	1,854,150	99.0
竹原市	0	0.0
大崎上島町	0	0.0
大竹市	1,180,170	46.5
廿日市市	2,546,200	75.0
廿日市市大野	2,503,300	98.7
廿日市市佐伯	371,421	92.3
廿日市市吉和	53,000	83.6
廿日市市宮島	203,605	97.5
安芸太田町	0	0.0

市町名	募金額(円)	対前年実績比(%)
北広島町	0	0.0
安芸高田市	0	0.0
東広島市	4,484,643	100.8
三原市	1,391,740	77.3
世羅町	208,500	22.0
尾道市	3,783,500	84.2
福山市	0	0.0
府中市	0	0.0
神石高原町	0	0.0
三次市	1,173,000	48.2
庄原市	120,000	4.9
呉市	0	0.0
その他	55,212	82.5
合計	24,652,131	42.3

市町別一覧表(平成28年7月末現在)

※この表は、平成28年7月末までに市町公衛協事務局から募金委員会に振込みのあった実績額を示しています。